

学校 教育 目標	<自分大好き 仲間大好き 心かがやく上菅田笹の丘小学校> ○楽しく学び、のびのびと表現しよう。(知) ○みんなも自分も大切に、社会に貢献しよう。(徳) ○元気な心と健康な体を作ろう。(体) ○学区の特色を知り、地域の方々と共に活動しよう。(公) ○すてきな日本を学び、世界で活躍できる人になろう。(開)			
	学校概要 創立 5 周年 児童生徒数: 927 人	学校長 世古 正樹 主な関係校: 上菅田中学校、新井中学校、上菅田特別支援学校	副校長 徳永久美子・栗田 諭 2 学期制	一般学級: 29 個別支援学級: 9

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	上菅田中学校 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <自分づくりに関する力>	上菅田中学校 上菅田笹の丘小 学校	自ら学ぶ子ども、仲間や地域とともに学ぶ子ども 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」:言語能力 「学びに向かう力」:協力を学び続ける態度 ・9年間で育成を目指す「言語能力」「学び続ける態度」を各教科で明確化する。 ・明確化した「言語能力」「学び続ける態度」を育成するため、各教科での具体的取組。

中期 取組 目標	○学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力を向上させます。 ・1年目は、自分自身で課題を発見し、課題解決に向けて粘り強く取り組み、自分の考えを表現できるようにします。 ・2年目は、自分の考えを伝え合う力を育て、自分の課題解決の方法を定めることができるようにします。 ・3年目は、伝え合うことで、協働的に解決策を見いだしていくことができるようにします。 ○地域での「人とのつながり」意識し、豊かな経験を通して、地域の方々と共に活動する心を育てます。 ・3年間を通して、一人ひとりが自己肯定感を高めるとともに、学校や社会に主体的に参画できるようにします。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①日常の中から課題を見つけ、主体的に学習をすすめていけるようにする。 ②児童が伝え合う方法を増やすことで、児童がより積極的に話す・聞くことができるようにする。 ③児童が自身のよさを理解し、それを安心して発揮できる場を授業の中で意図的に設定する。
徳	人権教育	①「だれもが」「安心して」「豊かに」学校生活を送ることができるように、多様な他者とかがわる場を意図的に設定し、他者を尊重する態度を育むことができるようにする。②自分のよさを見つけたり、友達のよさを伝えたりする活動を年間を通じて継続的に設定する。ありのままの自分を見つめ、よりよくしていこうとする態度を育てることで、自己肯定感を高めていく。③多様な機関、地域・保護者と連携し、教職員や子どもの人権感覚を磨き、いじめの未然防止に努める。
体	健康教育 食育	①各家庭と協力して基本的な生活習慣の定着「早寝早起き朝ごはん」を目指し、遅刻する子どもたちを減らしていく。②子どもたち思いを大切にしながら、体育委員会が中心となって、長縄・短縄大会を行う。③栄養教諭と連携しながら、毎月のバランスイナカードを丁寧に、自らの生活の課題を考えられるような食育に関する授業を行う。
公 開	自分づくり教育 (キャリア教育)	①「横浜の時間」を中心に、地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。②学年に応じて地域住民や企業が関わる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考えられる場を設定する。③「自分づくりパスポート」を活用し、様々な活動に対する意欲を高め、自己をより深く見つめることができる機会を設定する。今までの記録の積み重ねを振り返り、自分のよさや成長を実感し、自己肯定感を高めていく。
いじめへの対応		①児童が安心して学校生活を送ることができるように、児童の心情に寄り添い、丁寧に聞き取りを行う。組織的な対応を大切に、支援、指導、見守りを行う。②いじめの未然防止のために、計画的に研修を実施するとともに、教職員が情報を共有し、いじめに対する感度を高めていく。③いじめの認知以降、丁寧な経過観察を行い、継続的に児童や保護者に関わる。
担当	いじめ防止対策委員会	
担当	総務部	①メンターチームの講師をミドルリーダーがメンターチームに還元するように計画に位置づけ、メンターチームだけでなく、ミドルリーダーのさらなる成長も図っていく。研修等のグルーピングを工夫し、学年以外のつながりを強めることで、職員集団の成長を図る。②グループウェアや情報機器を活用し、情報の共有化、事務の簡便化・効率化を図り、円滑な運用としていく。③効率的に働ける校務分掌やシステムの構築、専科体制や学年の教科担当の工夫等の効率的な組織運営により、「持続可能な働き方」となる働き方改革を継続・推進する。
地域学校協働活動		①小中合同学校運営協議会を通して、本校の教育目標、教育活動を保護者・地域の方々にも周知するとともに、教職員も加わったテーマを絞った小グループでの熟議により学校運営の改善を目指す。②地域学校協働本部と連携・協働し、地域に開かれた学校経営を推進していく。③地域教育ボランティアの積極的な活用を継続し、各教科だけでなくクラブ活動等、様々な教育活動に地域の力を取り入れ、指導を充実させていく。
担当	教務部	
特別支援教育		①インクルーシブ教育の考え方の浸透および合理的配慮についての共通理解を図る。またそれが必要な児童には、全職員で共通理解を図り、速やかに対応していく。②個別支援学級や配慮を必要とする児童について児童理解研修を行う。また、配慮を必要とする児童の増加、ニーズの多様化に対応できるように職員研修を充実させる。要配慮児童の周囲の児童への指導・対応についても全職員で共通理解を図っていく。
担当	特別支援部	
児童生徒指導		①児童一人ひとりについて、学校で共通理解して指導にあたるように、話し合いの場を定期的に設定する。②指導部を中心として、定期的に児童の実態把握と分析を行い、学校として共通の指導を行う。③学校での指導や支援について、保護者への説明を迅速に行うとともに、今後の方向性を共有し、理解と協力を求める。
担当	指導部・教務部	
GIGAスクール構想		①学習のねらいを明確にもって、意図的にタブレット端末を利用する機会を設ける。児童が「文房具」のように必要に応じてタブレット端末を使用する意識を高める。②引き続き、実践してきた教材等をクラウド上に適切に保管・整理し、児童・教職員にとって、持続可能な教育課程の運営を行う。③SNS等の適切な使い方やトラブルの未然防止など、情報モラルについて指導する。
担当	情報部	